

土井 香苗

ヒューマン・ライツ・ウォッチ東京オフィス代表

日本でトップの女子校から東大法学部に現役合格。司法試験を最年少で突破——。驚くべき経歴を持つ才媛が、職業として選んだのは、弱者の人権を救済する異色の国際NGOだった。

撮影／永田忠彦 文／丸本忠之

才媛が選んだ人生

The
Target

Volume 10
Doi Kanae



週刊現代
2009年12月12日号
P.15

法廷でも
しょっちゅう
泣いていました

本当によく泣く人
である――。

自著やアフガン難
民の回想録には「号

泣する土井センセイ」の姿が頻出する。ビ
ルマ民主化運動と弾圧を描く映画『ビルマ
VJ』の上映会に同行したときも、暗い会
議室に鼻をすすする音が響いた。

「銃で迫われた人たちを思うと、抑えられ

なくて。すごい泣き虫なんです。新聞にも
必ず悲しい話が載ってるでしょ。一日1回
は読んで泣いてる。弁護士時代は法廷でも
泣いてましたよ。原爆の集団訴訟なんか、
原告の話があまりに可哀相で。裁判官はさ
すがに表情も変えず聞いていたけど、書記
官が涙を流したんです。日本の裁判も捨て
たもんじゃないかって」

弱者の叫びに共振してしまう感受性。こ

れもひとつの才能とみなすなら、土井は難
民救済や人権保護の道へ入るべくして入っ
たといえるだろう。

最難関の桜蔭中学・高校から東京大学法
学部へ現役合格。3年生のとき史上最年少
(当時)で司法試験を突破。5年間の弁護
士勤務のあとニューヨーク大学で修士号を
取得。国際弁護士の資格ももつ。人を威圧
するに足る経歴だ。



スーパーウーマン
の素顔は意外と庶民的
「仕事に行き詰まると
居酒屋にダンナを
呼び出して、グチを
聞いてもらいます」

△ オフィスは東京・御茶
ノ水の明治大学の施設
内にある。常勤は土井ともう
一人の女性スタッフのみ。「い
まは女二人で仲良くやってま
す。規模を大きくするために
はやはお金が必要」

△ (右) オフィス開設チ
ャリティディナーに
は旧知の友人も多数参加し
た(中) ディナーに先立ち外
国人記者クラブで会見(左)
ビルマ軍事政権の圧政を描
いた映画の上映会後、デン
マーク人助監督と意見交換

しかし、決してエリート街道は歩んでいない。法曹界に君臨する裁判官や、企業から高額報酬を保証される涉外弁護士ではなく、「青臭い」人権派弁護士を選んだ。救済対象となる弱者は、報酬を払えないことすらある。

「よく私の経歴を見た人から『なんで、こんなことやってるの?』とか言われます。でも、なぜか自然と、こっちの方向へきちやう(笑)。

母がすごく厳しい人で、暗い子供時代を過ごしたんです。勉強しかやらせてもらえない。クラブ活動も禁止。母を怒らせないために『いい子』でいるしかないけど、そんな自分がすごく嫌だった。嫉と言うんでしょうが、いまでも私はイジメられたと思ってる。だから、弱い立場の人を見るとシンパシーを感じるというか、胸がキュンとしちゃうのかも」

善意の発想 だけでは 限界がある

大学2年生のとき、思いきって高校生の妹とともに家出。これが人生のターニングポイントとなった。自由を知り、何事にも積極的な性格になる。母親とはその後、ほとんど会っていない。

「家庭内暴力で離婚する女性って、かなりマインドコントロールを受けているんですよ。『お前はダメな妻だ』と毎日言われ続けたら、本当にそう思うようになる。子供も同じで、母から『女は資格がないと生きていけない』『あなたみたいなおつちよこ

ちよいは、医師や弁護士にならないと社会から落ちこぼれる』と脅かされ続けて、私もそう信じ込んだ。だから、実はいまでも、あんまり自分に自信をもてるタイプじゃないんです」

現在、弁護士活動は休業中。国際人権NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)」の東京オフィスを軌道に乗せる仕事に専念している。

ニューヨークに本部をもつHRWは、ロ



The Target Volume 10 / Doi Kaname

ンドンに本部をもつアムネスティと並び、世界最大の人権団体だ。年間収入は約48億円、正規職員は約250人。本部はエンバリア・ステート・ビルディングの2フロアを占拠している。我々がNGOという言葉でイメージするものと、いかにかけ離れた規模か、ご理解いただけると思う。

「援助団体ではなく、シンクタンクに近い

存在です。世界七十余国の人権状況を監視して、改善を求める。その国にプレッシャーをかけるためには、先進国に政策提言したり、国連決議を作ったりもする。だからスタッフの半分以上は弁護士だし、残りも地域研究者とか専門家。修士号・博士号をもった人ばかりです。

とにかく情報の質と量がすごい。情報で政府を上回れなければ、説得なんて不可能ですから。最新の情報がメディアで流れるずっと前に入ってきて、すぐ世界レベルで共有される。うちの上司も『毎朝2000通のメールが入ってて、読みきれないよ』と泣いてるぐらいで」

留学前は、日本に滞在する難民の救済に奔走していた。しかし、個々の難民を助けられたとしても、難民を生み出す「もっと大きな問題」は解決できない。そこで出会ったのがHRWだった。

ニューヨーク大学の同級生のほとんどがHRWへの就職を望んでいたという。しかし、ニューヨーク大学、ハーバード大学、コロンビア大学から1名ずつといった採用枠があるため、非常に狭き門。土井は国際交流基金のバイパスを使って、1年間だけ潜り込む。

「とにかくブラグマティック(現実的)」。日本でこういう活動をやると、すぐ『困ってる人を助けよう』って善意の発想になる。でも、『弾圧している側を懲らしめる』のも、弱者救済になるんですね。実際、例えばビルマの難民と話すと、軍事政権を制





裁してほしいと頼んでくる。
そこで、軍事政権が何を一番嫌がるか、必死になって考える。普通に貿易制裁しても効果は薄い。天然資源を中国が買い続けるし、食料も豊かな国ですから。じゃあ、幹部の国際金融取引をストップさせよう。高級車を買ったり、最先端医療を受けたり、子供に高等教育を受けさせたりできなくなれば、大打撃です。人権保護を求める声を無視できなくなる。
各国政府に働きかけて、アメリカ、カナダ、スイス、オーストラリアでは採用されました。自分にはなかった発想で、もうビックリの一言。たちまちフォーリンラヴって感じですね」

「たかがNGO」 日本政府の文化

アジアの人権問題はビルマだけではない。例えばスリランカでは、25万人ものタミル人が強制収容所に入れられたまま

だ。巨額の経済援助を続ける日本政府を動かす必要があるが、HRWはアジアに拠点をもちたなかった。土井は帰国に当たり、HRW代表から東京オフィス開設の可能性を

「(上)3歳頃、自宅の庭で
(中)4歳下の妹の七五三で。日曜
(下)小学校高学年の運動会の一コマ

寄付もあつたので、この日だけで1500万円、2000万円の収入です。年間2500万円あれば、家賃7万円のオフ

「日本では画期的でしょうが、これでも向こうでは安いぐらい。HRWが欧米でやるときは、一番高いテーブルが約1000万円。ケタがひとつ違う。私も最初は目を疑いましたけど。」

圧巻は開設記念に六本木ヒルズで催したチャリティ・ディナー。約160人が集まった。一人掛け席は3万5000円。8人用テーブルは100万円、75万円、50万円と破格の3ランク。それでも3人が100万円を出した。

打診される。寄付文化が根付いていない日本では無理だろうと、同僚たちは悲観的だった。土井自身も、資金集めの経験などなかった。つてを頼って実業家を訪ね歩き、松本大・マネックス証券社長の協力をとりつける。準備期間2年を経て、今年4月、オープンにこぎつけた。

The Target Volume 10 / Doi Kanae

イスに有給スタッフ2人で、なんとか回していける。ただ、初年度はご祝儀もあつたでしょうからね……。毎年毎年、集められるのかしら。キャーッ、大変！」
資産家からの巨額の寄付。「貧者の一灯」にこだわる関係者は、顔をしかめるかもしれない。しかし、日本の市民セクターがなかなか成長しない最大の理由は、財務基盤の弱さにある。「年間収入を3000万、3500万と増やせば、優秀なスタッフを雇える」という土井の態度は健全だろう。NGOが「エリート」の憧れる就職先になったとき、日本社会は確実に変わる。
ただ、大きな壁は立ちちはだかる。はたして日本政府が「たかがNGO」の声に耳を傾けるのか。
「外務省に行っても、まだ『あんた誰?』みたいな感じ(笑)。「なんでNGOに教えを請わなきゃいけないんだ」という気持ちもあるでしょうし。世界のHRWで、私が一番高い壁に直面してる。寄付の文化も、市民による政策提言の文化もありませんから。文化を変えるのは10年単位と思って、焦らずやります」



「アムネスティや国際開発高等教育機関などに勤める同志たちと。『お酒は強くない』が肝と議論を重ねていた

「人権を守るには、
草の根だけじゃなく
いろんな方向からの
アプローチが
あっていいと思う」



Doi Kanae

1975年、神奈川県横浜市生まれ。東大法学部3年時に司法試験に合格。4年時にエリトリアに単身渡り、法律作りのボランティアに従事。'00年弁護士登録。'05年ニューヨーク大に留学後、HRWの本部に勤務。'09年4月にHRW東京オフィスを開設、代表となる